

8-8 資本主義的生産の三つの主要な事実

「資本主義的生産の三つの主要な事実

(1)少数の手のなかでの生産手段の集積。これによって、生産手段は直接的労働者の所有としては現れなくなり、反対に生産の社会的力に転化する。たとえ最初は資本家の私的所有としてではあっても。資本家はブルジョア社会の受託者であるが、彼らはこの受託の全果実を取りこんでしまうのである。

(2)社会的労働としての労働そのものの組織。協業や分業によって、また労働と自然科学との結合によって。

どちらの面から見ても資本主義的生産様式は私的所有と私的労働とを廃棄する。たとえ対立的な諸形態においてであっても。

(3)世界市場の形成。

資本主義的生産様式のなかで発展する、人口に比べての巨大な生産力、また、それと同じ割合ではないとはいえ、人口よりもずっと急速に増大する資本価値(単にその物質的基体だけではなく)の増大は、増大する富に比べてますます狭くなって行く基礎、つまりそのためにこの巨大な生産力が作用する基礎と矛盾し、また、この膨張する資本の増殖関係と矛盾する。そこで、恐慌が起きる。」(大月版『資本論』④ P333B7-334)